

風疹に関する疫学情報：2021年1月27日現在

国立感染症研究所 感染症疫学センター

2021年第3週の風疹報告数

2021年第3週（1月18日～1月24日）の風疹報告数は0人であった。遅れ報告はなく、第1～3週の風疹累積患者報告数は、第2週と変わらず1人であった（図1、2-1、2-2）。なお、第3週に診断されていても、2021年1月25日以降に遅れて届出のあった報告は含まれないため、直近の報告数の解釈には注意が必要である。

先天性風疹症候群の報告数

2008年の全数届出開始以降の風疹ならびに先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome: CRS）の報告数を示す(<http://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/700-idsc/5072-rubella-crs-20141008.html>)。2018～2019年の流行で、2019～2020年に5人がCRSと診断され報告された（図3）。2020年第2週の報告以降、CRSの報告はなかったが、2021年第2週に1人が報告された（報告都道府県：岡山県、推定感染地域：大阪府、性別：男、母親のワクチン接種歴：有り（回数：1回、接種年：令和2年、種類：風疹単抗原）、母親の妊娠中の風疹罹患歴：無し）。

2013年以降の風疹報告数

2013年（14,344人）の流行以降、2014年319人、2015年163人、2016年126人、2017年91人と減少傾向であったが（図2-1,2-2,3）、2018年は2,941人、2019年は2,306人、2020年は100人が報告され、2021年は第3週時点で1人が報告された（図1,2-1,2-2,3）。

図1

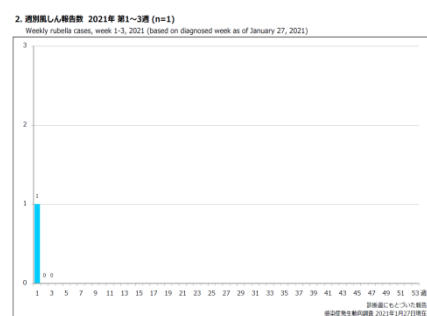


図2-1

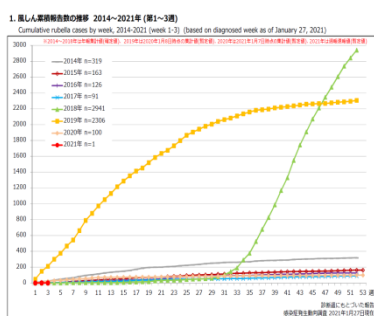


図2-2

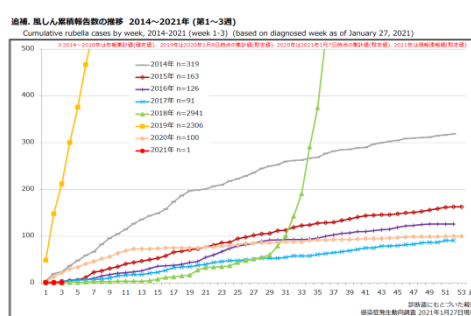
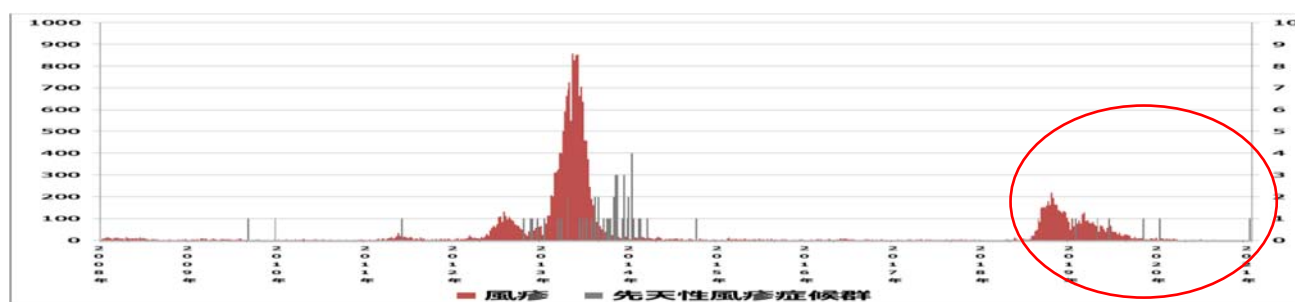


図3

風疹(人)

先天性風疹症候群(人)



地域別報告数

地域別には大阪府から1人報告された(図4,6,7)。第3週は報告がなかった(図5)。

図4

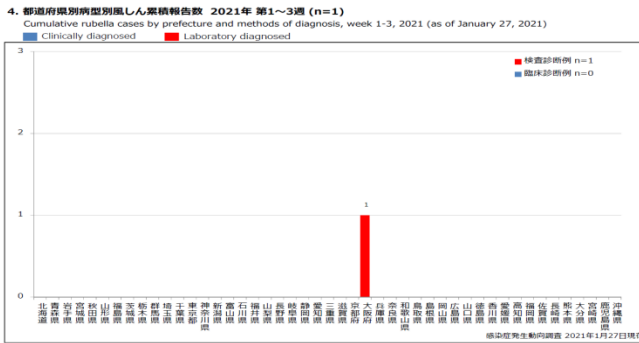


図5

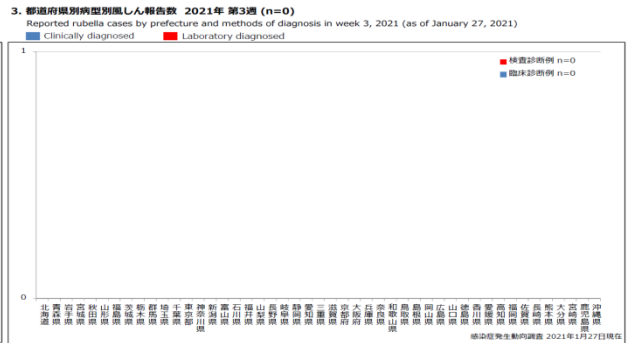


図6

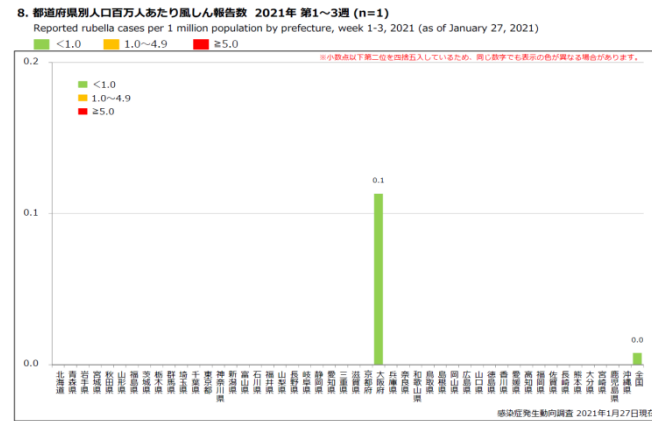
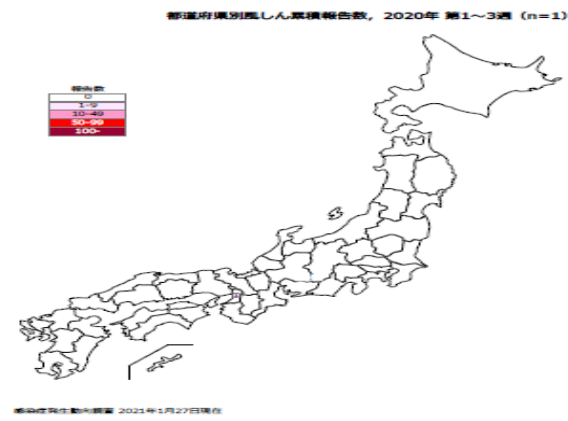


図7 都道府県別風疹報告状況(2021年第3週)



症状

発疹、左上半身の痛み等が報告されたが、発熱、リンパ節腫脹はともになかった。

検査診断の方法

血清 IgM 抗体の検出で実施され、PCR 法によるウイルス遺伝子の検出は実施されていない。

推定感染源

不明であった。

職業

無職であった。

年齢・性別

60代の男性であった(図8,9,10)。

図8

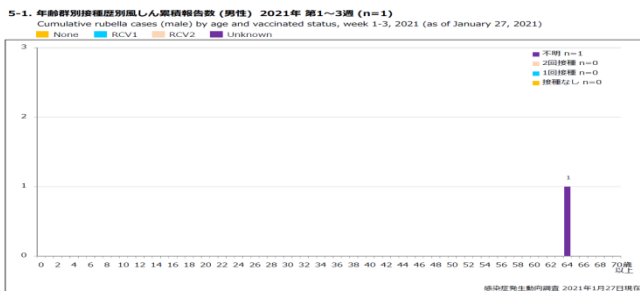


図9

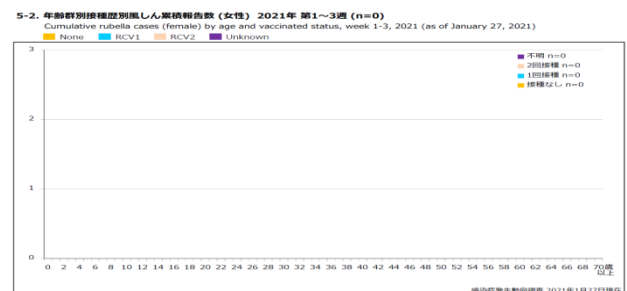
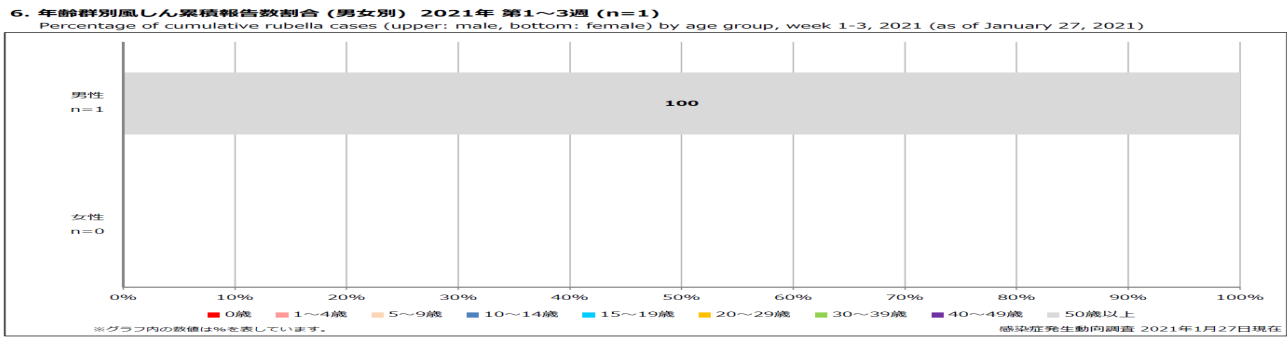


図 10



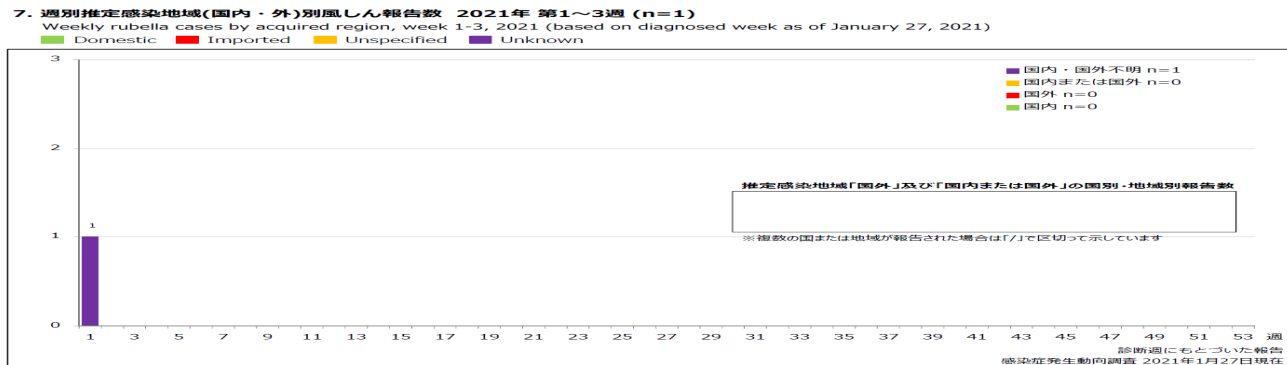
予防接種歴

不明であった (図 8)。

推定感染地域

国内・国外不明であった (図 11)。

図 11



風疹 HI 抗体保有状況

風疹はワクチンによって予防可能な疾患である。予防接種法に基づいて、約 5,000 人規模で毎年調査が行われている感染症流行予測調査の 2019 年度の結果を見ると、成人男性は 40 代前半 (HI 抗体価 1 : 8 以上 : 80%)、40 代後半 (同 : 78%)、50 代前半 (同:76%) ,50 代後半 (同:84%) で抗体保有率が特に低い (図 12-1)。2019~2020 年の風疹患者報告の中心もこの年齢層の成人男性であることから、この集団に対する対策が必要である。一方、妊娠出産年齢の女性の抗体保有率 (HI 抗体価 1:8 以上) は概ね 95%以上で高く維持されていた (図 12-2)。妊婦健診で低いと指摘される抗体価 (HI 抗体価<1:8, 1:8, 1:16) の割合は 20 代前半で 27%、20 代後半で 19%、30 代前半で 19%、30 代後半で 10%、40 代前半で 17%、40 代後半で 17%存在することから (図 15-2)、特に妊娠 20 週頃までの妊婦の風疹ウイルス感染には注意が必要である。

図 12-1 男性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況

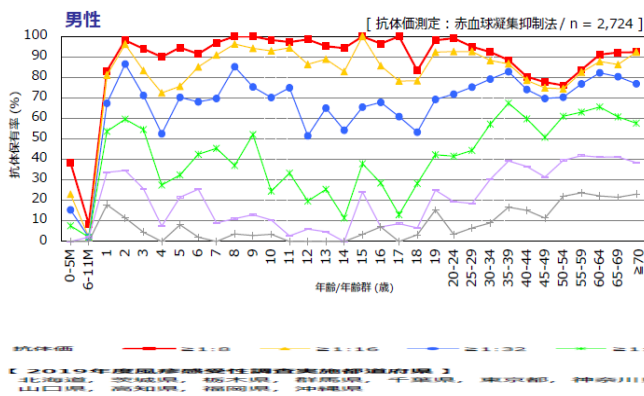
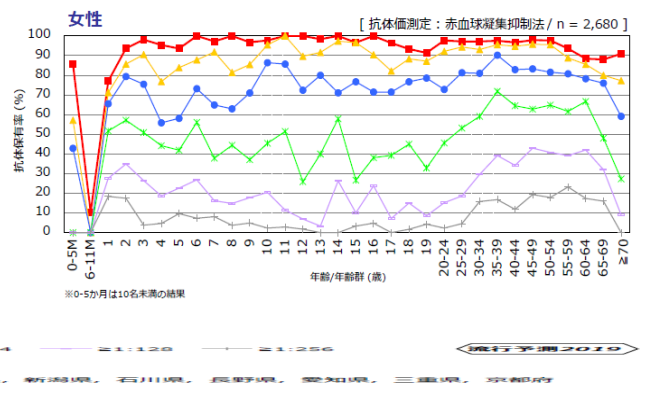


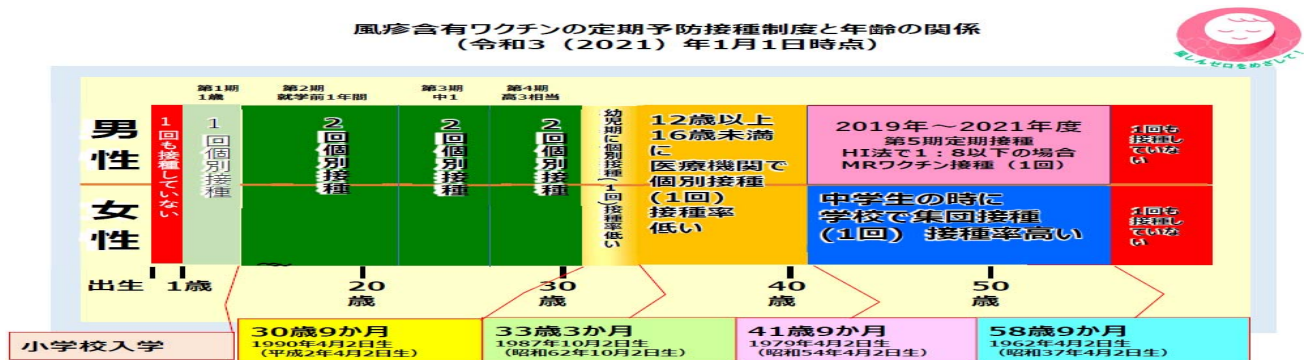
図 12-2 女性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況



第 5 期定期接種

風疹第 5 期定期接種対象の昭和 37 (1962) 年 4 月 2 日～昭和 54 (1979) 年 4 月 1 日生まれの男性 (図 13) は、積極的に風疹抗体検査を受け、検査結果に応じて予防接種を受けることが勧奨されている。

図 13



対象者に対しては、市町村からクーポン券が送付されるが、2019 年度に続き、2020 年度も各自治体からクーポン券が発送された (<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000645412.pdf>)。発送された対象者は自治体によって異なる。厚生労働省によると、2019 年 4 月 1 日時点の第 5 期定期接種対象 (昭和 37 (1962) 年 4 月 2 日～昭和 54 (1979) 年 4 月 1 日生まれ) の男性人口は全国で 15,374,162 人であった。2020 年 10 月までに抗体検査を受けた人が 2,696,049 人 (クーポン券使用 2,629,742 人、自治体 66,307 人) で対象男性人口の 17.5% (2020 年 9 月から 0.4 ポイント増加)、予防接種を受けた人は 553,128 人 (クーポン券使用 540,031 人、自治体 13,097 人) で対象男性人口の 3.6 % (2020 年 9 月から 0.2 ポイント増加) であった。

各都道府県別のクーポン券使用者数を下記に示す (図 14, 図 15)。クーポン券使用割合が高かった上位 5 自治体は富山県、長野県、岩手県、秋田県、滋賀県、下位 5 自治体は京都府、沖縄県、大阪府、神奈川県、福岡県であった (図 16)。なお、クーポン券が未送付であっても、市町村に希望すれば、クーポン券を発行し抗体検査を受検できる。風疹抗体検査・風疹第 5 期定期接種受託医療機関については厚生労働省のホームページ (「風しんの追加的対策について」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakaku-kansenshou/rubella/index_00001.html) を参照のこと。

風疹はワクチンで予防可能な感染症である。

図 14 各都道府県別の抗体検査実施者数（厚生労働省健康局結核感染症課調査）

図 15 各都道府県別の予防接種実施者数（厚生労働省健康局結核感染症課調査）

図 14

図 15

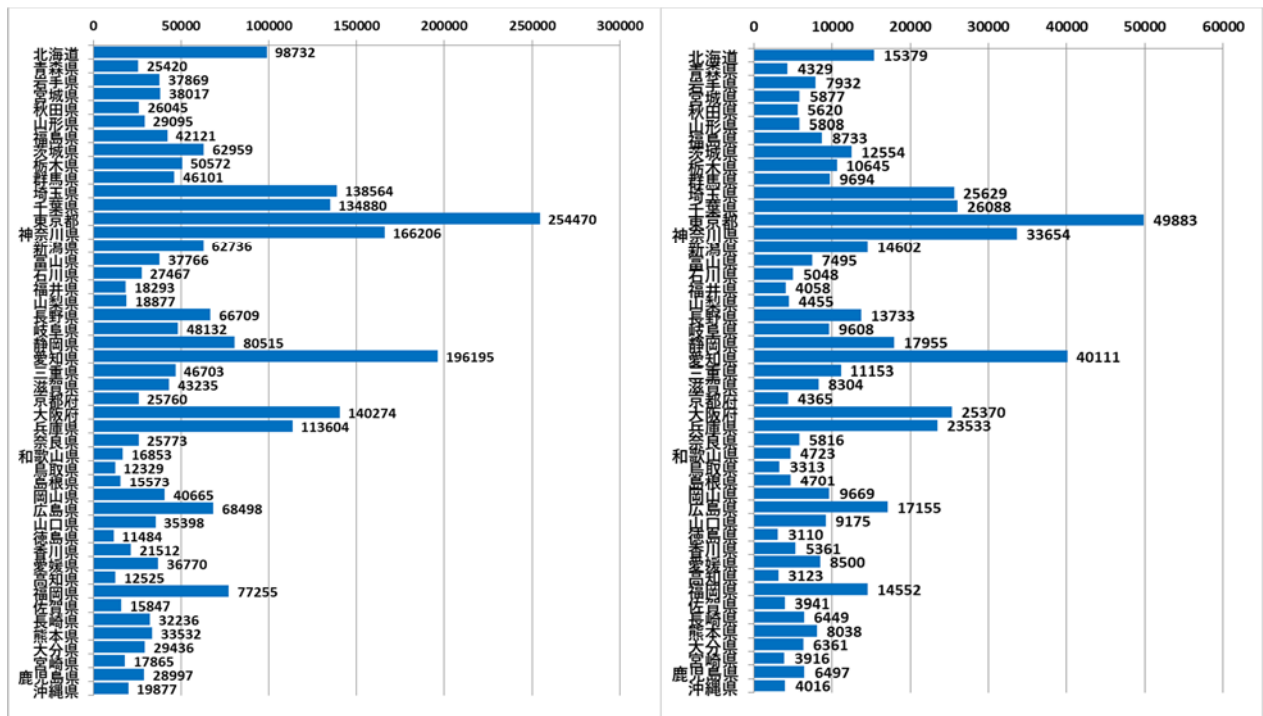


図 16 各都道府県別の抗体検査実施者割合（厚生労働省健康局結核感染症課調査） (%)

